6.2ダム湖及びその周辺の環境の把握

6.2.1熊野川水系の自然環境の特徴

熊野川は大峰山系の山上ヶ岳･稲村ヶ岳･大普賢岳の間に水源を発して西流し(天ノ川)、十津川渓谷を南に流れ（十津川)、大台ケ原を水源とする北山川と合流して熊野灘に注ぐ、幹川流路延長 183km の一級河川である。流域は奈良・和歌山・三重の 3 県にまたがっており、流域面積 2,360km^{2}で、近畿管内の河川の中では淀川、九頭竜川に次いで 3 番目となっている。

その流域の大部分（97.6%）は山林となっており、平地は僅か 0.6%である。山林のうち、上流の水源地帯にはトウヒ、コメツガ等の針葉樹、ブナ、ミズナラ等の広葉樹を主とする天然樹林が広がり、中流から下流にかけてはスギ、ヒノキ等の植林が多く見られる。特にスギは熊野杉と呼ばれ、銘木の一つに数えられている。

流域の自然環境は、熊野川本川下流から北山川にかけての広い範囲が吉野熊野国立公園に指定され、美しい自然景観を誇るとともに、地史的、気候的特徴から変化に富んだものとなっており、国の特別天然記念物のカモシカ、同じく国の天然記念物であるイヌワシ、三重県の天然記念物であるオオダイガハラサンショウウオ、奈良県の天然記念物であるイワナ（キリクチ）など貴重な生物が生息している。

また、流域内には猿谷ダム、風屋ダム、池原ダムなど 11 のダムが造られ、豊富な水量を生かした水力発電等が行われているが、ダム下流においては濁水の長期化や瀬切れなどの問題も生じている。

さらに、平成 16 年 7 月、「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録され、中でも熊野川下流域の熊野本宮大社から熊野速玉大社の間は、世界に類を見ない世界遺産「川の参詣道」となり、観光資源としても注目されている。

図 6.2-1　熊野川水系の概要

6.2.2ダム湖及びその周辺の自然環境の特徴

(1)植生の状況

猿谷ダムは、熊野川河口より約 100㎞ の奈良県五條市に位置し、標高は 436mで、周辺の地形は全般に急峻であり大部分が森林である。植生としては、スギ－ヒノキ植林およびアラカシ群落､コナラ群落が優占しており､ダム湖右岸側を中心に流入河川や沢が分布し、また地形的な変化に富むことから、立地に応じて多様な植生がみられ、ウバメガシ群落も見られている。ダム湖周辺の植生調査結果によると、スギ－ヒノキ植林が調査範囲全域の 6 割程度を、次にコナラ群落、アラカシ群落がそれぞれ 1 割程度を占めている(図 6.2-2 参照)。

(2)生物の確認状況

猿谷ダム周辺の豊かな森林環境においては、アカマツ林を好むハルゼミ、カラスザンショウを食草とするミヤマカラスアゲハ等の陸上昆虫類等や、針葉樹の枝上に営巣するハイタカ、クサギを食餌樹とするモズ、サンショウを食餌樹とするルリビタキ、ウメモドキを食餌樹とするキビタキ等の鳥類、アカマツの球果を餌とするムササビ、オニグルミの堅果を餌とする齧歯類等の哺乳類など、森林環境や樹木に依存する多種多様な生物が生息している。また、河畔林についてもアオサギの繁殖地や、トビ、ミサゴが魚類を捕獲する際の待機場として利用されている。

(3)重要種の状況

猿谷ダム周辺における重要種としては、魚類はアカザ、アマゴ等の 9 種、植物はコウヤカンアオイ、ヤマホオズキ等の 51 種、鳥類はオオタカ、クマタカ等の 36 種、両生類・爬虫類・哺乳類はイモリ、ヤマカガシ、カワネズミ等の 10 種、陸上昆虫類等はナカハラヨコバイ、クロシジミ等の 22 種が確認されている。

(4)外来種の状況

猿谷ダム周辺における外来種の確認状況としては、魚類はオオクチバス、ニジマスの 2 種、植物はハリエンジュ、ブタクサ等の 72 種、鳥類はソウシチョウ 1 種、両生類・爬虫類はウシガエル、ミシシッピアカミミガメの 2 種、陸上昆虫類等はラミーカミキリやセイヨウミツバチ等の 21 種が確認されている。

また、そのうち魚類のオオクチバス、植物のアレチウリ及びオオカワヂシャ、鳥類のソウシチョウ、両生類のウシガエルについては､「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」により指定されている特定外来生物に該当する。

(5)魚介類の放流実績

猿谷ダム周辺における魚類放流実績を表 6.2-1 に示す。近年、ダム上流域ではアマゴ、アユ、ウナギ、コイ、ニジマスの 5 種、ダム下流域ではアマゴ、アユ、ウナギの 3 種の放流が行われている。

表 6.2-1　猿谷ダム周辺における魚類放流実績

区間	対象魚介類名	放流実績																								備考
		卵放流量								稚魚放流量								成魚放流量								
		千粒／年								千尾／年								kg／年								
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	
ダム上流	アマゴ	300	300	300	300	300	300	300	300		100	100	90	80	80		350	4250	4400	4300	4300	4260	3730	4240	4000	
	アユ																	2190	2000	2300	2120	2790	2700	2412	2194	琵琶湖産
	ウナギ									20kg/年								0	20	20	20	35	35	50	50	
	コイ									230kg/年								0	150	150	150	150				
	ニジマス																	2350	1910	2650	2370	2500	2300	2000	2000	
ダム下流	アマゴ	100	100	100	100	100	100			100kg/年	12	12	12	12	12	12	12	150								
	アユ																	250	250	240	250	210	180	250	270	
	ウナギ																	10	10	10	10	10	10	40		

(出典：文献番号 6-17，19)

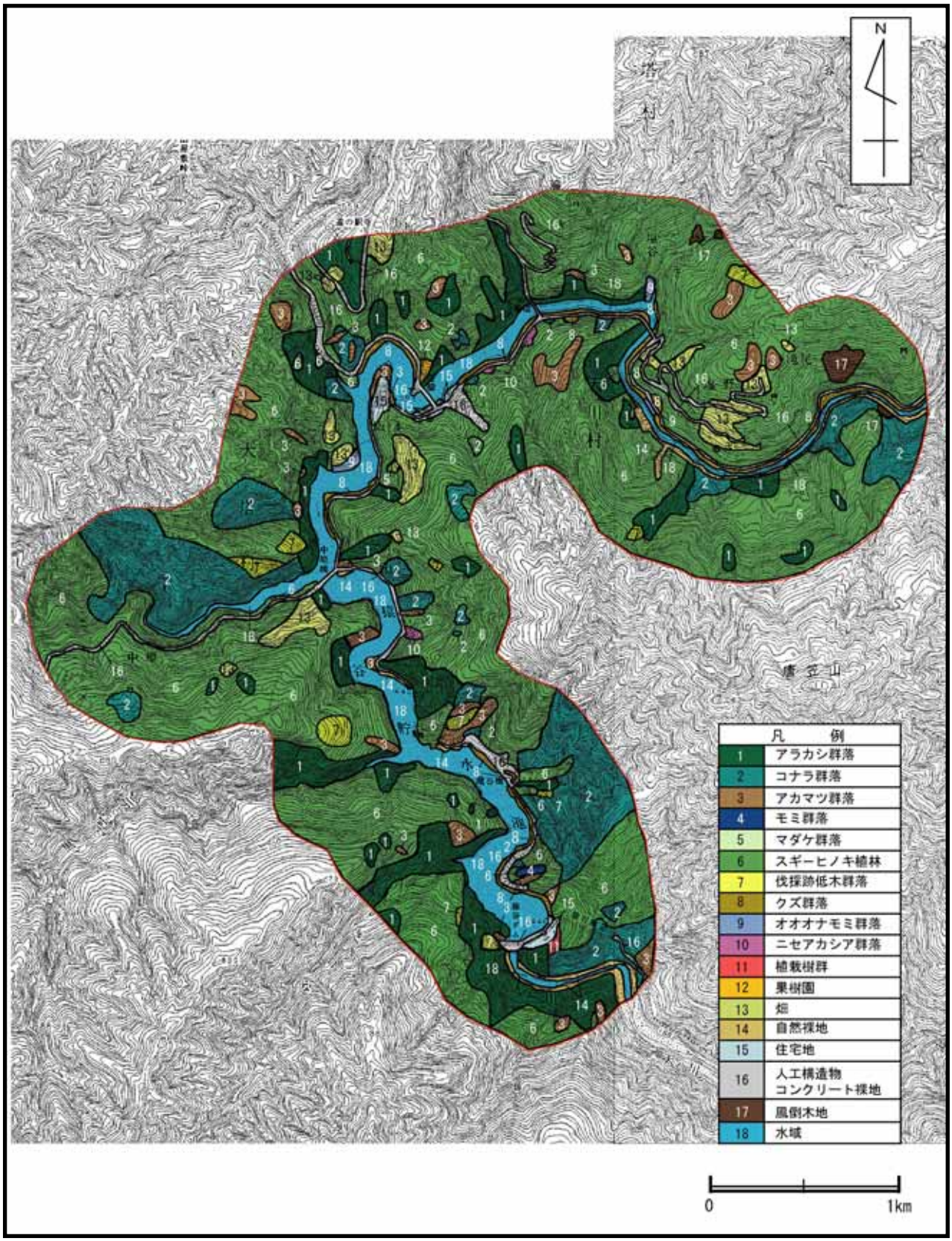

図 6.2-2　猿谷ダム周辺植生図(平成 14 年(2002 年)度)

(出典：文献番号 6-15)

6.2.3ダム湖及びその周辺に生息・生育する生物の特徴

(1)**魚類**

1)**魚類相の概況**

猿谷ダム周辺で確認した魚類は、「河川水辺の国勢調査」によると合計 4 目 9 科 33 種であった。(表 6.2-2 参照)。

表 6.2-2　猿谷ダム周辺における魚類の確認状況

NO.	目名	科名	種名	下流河川				ダム湖				流入河川			
				H6 (1994)	H11 (1999)	H16 (2004)	H18 (2006)	H6 (1994)	H11 (1999)	H16 (2004)	H18 (2006)	H6 (1994)	H11 (1999)	H16 (2004)	H18 (2006)
1	コイ目	コイ科	コイ					●	●	●	●		●	●	
2			ゲンゴロウブナ						●						
3			ギンブナ					●	●	●	●		●	●	
4			ニゴロブナ						●						
			フナ属の一種					●		●					
5			ハス					●		●	●				
6			オイカワ			●	●	●	●	●	●		●	●	●
7			カワムツ		●	●	●		●	●	●		●	●	●
8			アブラハヤ			●		●				●			●
9			タカハヤ		●		●			●			●		●
10			ウグイ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
11			モツゴ					●	●						
12			ビワヒガイ						●						
13			ホンモロコ						●	●	●				
14			ゼゼラ							●	●				
15			カマツカ					●	●	●	●		●	●	
16			ニゴイ					●	●	●	●		●		●
17			イトモロコ						●					●	
18			スゴモロコ						●	●	●				
19			コウライモロコ					●	●	●	●				
20		ドジョウ科	スジシマドジョウ大型種								●				
21			スジシマドジョウ中型種							●					
22			スジシマドジョウ小型種					●							
			スジシマドジョウ					●							
23	ナマズ目	ギギ科	ギギ				●	●	●	●	●		●		
24		アカザ科	アカザ				●				●		●	●	
25	サケ目	キュウリウオ科	ワカサギ			●			●	●	●				
26		アユ科	アユ	●				●	●	●	●	●	●	●	●
		サケ科	イワナ属の一種						●						
27			ニジマス							●				●	
28			アマゴ			●	●		●	●		●	●	●	●
29	スズキ目	サンフィッシュ科	オオクチバス						●	●	●			●	
30		ハゼ科	ウキゴリ						●		●				
31			トウヨシノボリ				●				●				
32			カワヨシノボリ		●	●	●		●		●		●	●	●
			ヨシノボリ属の一種	●								●			
33			ヌマチチブ			●	●		●		●				
計	4目	9科	33種	2	4	8	10	15	24	21	22	5	13	13	8

(出典：文献番号 6-4，11，17，19)

2)**重要種**

猿谷ダム周辺における魚類の重要種の確認状況を表 6.2-3 に示す。

猿谷ダム周辺においては、環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されているアカザなど、合計 4 目 6 科 9 種の重要種を確認した。

表 6.2-3　猿谷ダム周辺における魚類の重要種の確認状況

NO.	目名	科名	種名	確認状況				選定基準			
				H6 (1994)	H11 (1999)	H16 (2004)	H18 (2006)	a	b	c	d
1	コイ目	コイ科	アブラハヤ	●		●					希少
2			ゼゼラ			●	●				危惧
3			イトモロコ		●	●					希少
4	ナマズ目	ギギ科	ギギ	●	●	●	●				希少
5		アカザ科	アカザ		●	●	●			VU	危惧
6	サケ目	アユ科	アユ	●	●	●	●				寸前
7		サケ科	アマゴ	●	●	●	●			NT	
8	スズキ目	ハゼ科	ウキゴリ		●		●				希少
9			カワヨシノボリ		●	●	●				希少
計	4目	6科	9種	4	7	8	7	0	0	2	8

重要種の選定根拠は以下のとおりである。

a：「文化財保護法(昭和25年法律第214号)」により天然記念物に指定されている種

b：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)」で指定されている種

c：「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物I及び植物IIのレッドリストの見直しについて（環境省　平成19年8月）」に記載されている種

CR：絶滅危惧IA類（ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種）

EN：絶滅危惧IB類（IA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種）

VU：絶滅危惧II類（絶滅の危険が増大している種）

NT：準絶滅危惧（存続基盤が脆弱な種）

DD：評価するだけの情報が不足している種

Lp：絶滅のおそれのある地域個体群（地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの）

d：「2006大切にしたい奈良県の野生動植物-奈良県版レッドデータブック-(脊椎動物編)奈良県農林部森林保全課,平成18年3月」に記載されている種

絶滅：絶滅種（すでに絶滅したと考えられる種）

寸前：絶滅寸前種（絶滅の危機に瀕している種）

危惧：絶滅危惧種（絶滅の危機が増大している種）

希少：希少種（存続基盤が脆弱な種）

不足 ：情報不足種（評価するだけの情報が不足している種 ）

注目：注目種（上記の区分以外で奈良県において生物多様性の保全上注目される種）

郷土：郷土種（県民が大切にしている、もしくは大切にしたい種）

※ ゲンゴロウブナ、ニゴロブナ、ハス、ホンモロコ、スゴモロコ、スジシマドジョウ大型種が環境省レッドリストに掲載されているが、琵琶湖固有種等であり、猿谷ダムにおいては国内移入種であると考えられることから重要種として選定していない。

(出典：文献番号 6-4，11，17，19，37，40)

3)外来種

猿谷ダム周辺における魚類の国外外来種(日本国外から持ち込まれた種)の確認状況を表6.2-4に示す。国外外来種としては、「特定外来生物による生態系に係わる被害の防止に関する法律」により特定外来生物として指定されているオオクチバスを確認した。

表 6.2-4　猿谷ダム周辺における魚類の国外外来種の確認状況

NO.	目名	科名	種名	確認状況				選定根拠
				H6 (1994)	H11 (1999)	H16 (2004)	H18 (2006)	
1	サケ目	サケ科	ニジマス			●		要注意(検討)
2	スズキ目	サンフィッシュ科	オオクチバス		●	●	●	特定
計	2目	2科	2種	0	1	1	1	1

外来種の選定根拠は以下のとおりである。

特定：「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」により指定されている特定外来生物

要注意(検討)：要注意外来生物リスト掲載種のうち、被害に係る一定の知見はあり、引き続き特定外来生物への指定の適否について検討する外来生物

(出典：文献番号 6-4，11，17，19，42)

(2)**底生動物**

1)**底生動物相の概況**

猿谷ダム周辺では、平成 6 年(1994 年)度、平成 11 年(1999 年)度、平成 16 年(2004 年)度に「河川水辺の国勢調査」が実施されており、90～140 種程度の底生動物を確認した。特にカゲロウ目、トビケラ目、ハエ目の確認種数が多くなっている。各調査年度における確認種数を表 6.2-5 に示す。

表 6.2-5　猿谷ダム周辺における底生動物の確認状況

綱名	目名	H6(1994)		H11(1999)		H16(2004)	
		科数	種数	科数	種数	科数	種数
ウズムシ	ウズムシ	1	1	1	1	1	1
マキガイ	ニナ	1	1	1	1	1	1
ミミズ	オヨギミミズ					1	1
	ナガミミズ	1	2	3	3	2	5
ヒル	咽蛭			1	1	1	1
甲殻	ワラジムシ	1	1	1	1	1	1
	ヨコエビ					1	1
	エビ			1	1	2	2
小計(昆虫類以外)		4	5	8	8	10	13
昆虫	カゲロウ	8	31	7	41	9	35
	トンボ	3	4	4	7	3	6
	カワゲラ	4	11	6	15	5	13
	カメムシ	1	1	2	2	3	3
	アミメカゲロウ	1	1	1	2	1	1
	トビケラ	9	17	12	23	15	25
	ハエ	5	19	5	37	5	29
	コウチュウ	3	3	2	3	6	14
小計(昆虫類)		34	87	39	130	47	126
合計		38	92	47	138	57	139

(出典：文献番号 6-4，11，17)

2)**重要種**

猿谷ダム周辺においては、底生動物の重要種に該当するものは確認していない。

3)**外来種**

猿谷ダム周辺においては、底生動物の外来種に該当するものは確認していない。

(3)動植物プランクトン

1)動植物プランクトン相の概況

猿谷ダム周辺では、平成 6 年(1994 年)度、平成 11 年(1999 年)度、平成 16 年(2004 年)度に「河川水辺の国勢調査」が実施されており、40～60 種程度の植物プランクトンと 30～50 種程度の動物プランクトンを確認した。

表 6.2-6(1)　猿谷ダム周辺における植物プランクトンの確認状況

綱名	H6(1994)	H11(1999)	H16(2004)
藍藻綱	3	3	
クリプト藻綱	2	2	
渦鞭毛藻綱	5	5	2
黄金色藻綱	5	1	
珪藻綱	31	34	34
ミドリムシ藻綱	1		1
緑藻綱	14	16	8
合計	61	61	45

(出典：文献番号 6-4，6，11，17)

表 6.2-6(2)　猿谷ダム周辺における動物プランクトンの確認状況

綱名	H6(1994)	H11(1999)	H16(2004)
葉状根足虫綱	2	4	3
糸状根足虫綱	1	2	
キネトフラグミノフォーラ綱	1	4	3
少膜綱	2	4	1
多膜綱	2	4	4
単生殖巣綱	14	25	12
ヒルガタワムシ綱	1	2	1
甲殻綱	7	8	8
合計	30	53	32

(出典：文献番号 6-4，6，11，17)

(4)**植物**

1)**ダム湖周辺の植生の概況**

猿谷ダム湖周辺の植生は、表 6.2-7 に示す 18 群落に区分できた。現存植生図を図 6.2-3、各植生の面積および比率を表 6.2-7 に示す。

各群落の面積、比率についてみると、スギーヒノキ植林が 685.10ha と調査範囲全域の 62.99%を占めており、次にコナラ群落が 123.18ha（11.33%）、アラカシ群落が 108.13ha（9.94%）を占めている。このほか、人為的影響の強い畑、人工構造物・コンクリート裸地、住宅地がそれぞれ 20.72ha、17.53ha、3.13ha となっている。

表 6.2-7　猿谷ダムの周辺において確認された群落及びその面積(平成 14 年度)

植生区分		群落名	面積 (ha)	比率 (%)
代償植生	木本群落	アラカシ群落	108.13	9.94
		コナラ群落	123.18	11.33
		アカマツ群落	22.52	2.07
		モミ群落	0.52	0.05
		伐採跡低木群落	9.26	0.85
		小計	263.61	24.24
	草本群落	クズ群落	6.04	0.56
		オオオナモミ群落	1.23	0.11
		小計	7.26	0.67
	代償植生小計		270.88	24.91
植林	マダケ群落		0.20	0.02
	スギーヒノキ植林		685.10	62.99
	ニセアカシア植林		0.86	0.08
	植林小計		686.15	63.09
その他	植栽樹群		0.48	0.04
	果樹園		0.47	0.04
	畑		20.72	1.91
	自然裸地		5.12	0.47
	住宅地		3.13	0.29
	人工構造物 コンクリート裸地		17.53	1.61
	風倒木地		3.56	0.33
	水域		79.56	7.32
	その他小計		130.56	12.00
総計			1087.58	100.00

(出典：文献番号 6-15)

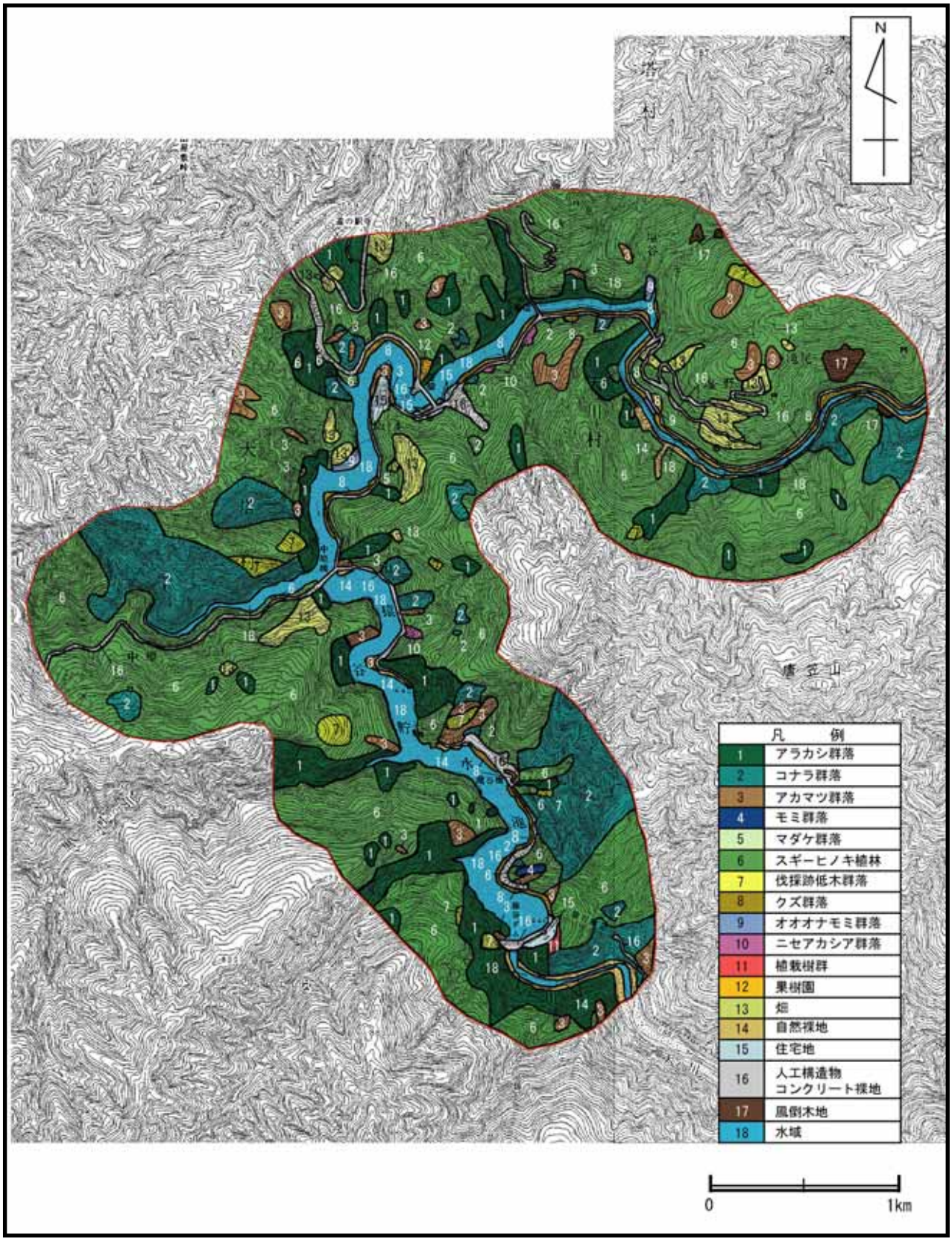

図 6.2-3　猿谷ダム周辺現存植生図(平成 14 年度)

(出典：文献番号 6-15)

2)**植物相の概況**

過去 3 回の植物相調査及び群落組成調査等の現地調査の結果、猿谷ダム周辺においては、823 種の維管束植物(シダ植物以上の高等植物)を確認した。

確認種の分類階級別の内訳を表 6.2-8 に示す。平成 6 年(1994 年)度調査では 451 種、平成 9 年(1997 年)度調査では 505 種を、平成 14 年(2002 年)度調査では 584 種を確認した。

表 6.2-8　猿谷ダム周辺における植物の確認状況

門名	綱名	亜綱名	H6(1994)	H9(1997)	H14(2002)	合計
シダ植物門			44	47	83	97
種子植物門	マツ綱		10	10	7	12
	双子葉植物綱	離弁花亜綱	224	254	287	397
		合弁花亜綱	106	126	135	196
	単子葉植物綱		67	68	72	121
合計			451	505	584	823

(出典：文献番号 6-2，8，15)

3)**重要種**

猿谷ダム周辺における植物の重要種の確認状況を表 6.2-9 に示す。

猿谷ダム周辺で確認した種のうち、重要種に該当する植物は 31 科 51 種である。

また、重要種の中でも絶滅のおそれがある等として貴重性が高く評価されている種として、環境省のレッドリスト(平成 19 年)記載種のうち、「絶滅危惧ⅠＢ類(EN)」該当種を 2 種、「絶滅危惧Ⅱ類(VU)」該当種を 1 種確認した。種の保存法(平成 5 年)における国内希少野生動植物、文化財保護法(昭和 51 年)における国、県の天然記念物該当種は確認していない。

表 6.2-9　猿谷ダム周辺における植物の重要種の確認状況

No.	綱･亜綱名	科名	種和名	確認状況			選定基準				
				H6 (1994)	H9 (1997)	H14 (2002)	a	b	c	d	e
1	シダ綱	ミズワラビ科	カラクサシダ			●				準	危惧
2		チャセンシダ科	コタニワタリ	●							希少
3			アオガネシダ			●					希少
4		オシダ科	ミドリカナワラビ	●	●					A	危惧
5			メヤブソテツ		●					準	
6			ヒロハヤブソテツ			●					危惧
7		メシダ科	オオヒメワラビモドキ			●					希少
8			イワデンダ			●					希少
9	双子葉植物綱･離弁花亜綱	カバノキ科	アサダ			●				準	
10		ビャクダン科	ツクバネ	●							希少
11		ヤマゴボウ科	ヤマゴボウ			●					寸前
12		ナデシコ科	ヤマハコベ			●				C	
13		アケビ科	ゴヨウアケビ			●					希少
14		ウマノスズクサ科	コウヤカンアオイ		●				EN	C	
15		ボタン科	ヤマシャクヤク	●	●				NT	C	危惧
16		オトギリソウ科	トモエソウ		●						危惧
17		アブラナ科	ワサビ			●					希少
18		ユキノシタ科	ギンバイソウ	●							危惧
19		バラ科	ビワ	●							不足
20			キンキマメザクラ			●					不足
21			アズキナシ	●	●						希少
22			ユキヤナギ			●				準	希少
23		マメ科	マキエハギ	●						C	危惧
24		トウダイグサ科	ノウルシ	●					NT	C	
25		ブドウ科	ヤマブドウ	●	●						希少
26		グミ科	マメグミ	●		●					危惧
27		スミレ科	ナガバノスミレサイシン		●						寸前
28		イチヤクソウ科	イチヤクソウ	●	●	●					希少
29		ゴマノハグサ科	ホソバヒメトラノオ		●					A	
30			カワヂシャ	●					NT	準	希少
31		アカネ科	イナモリソウ		●						希少
32		シソ科	カイジンドウ	●					VU		
33			オウギカズラ		●					準	希少
34			メハジキ			●					希少
35			ナミキソウ		●					A	
36		ナス科	ヤマホオズキ	●					EN	A	危惧
37		スイカズラ科	ゴマギ		●						希少
38		キク科	テイショウソウ	●	●	●					希少
39			カワラハハコ			●				B	希少
40			モリアザミ	●						B	絶滅
41			ヤナギタンポポ	●						B	
42	単子葉植物綱	ユリ科	ササユリ	●	●	●					希少
43			ヤマホトトギス		●						希少
44		イネ科	ミノボロ	●						C	危惧
45		カヤツリグサ科	ヒメスゲ			●				準	希少
46			ヤブスゲ	●	●					A	
47		ラン科	ギンラン			●					希少
48			シュンラン	●	●	●					危惧
49			ミヤマウズラ	●	●	●					希少
50			オオバノトンボソウ		●						希少
51			カヤラン		●						希少
合計		31科	51種	23	22	22	0	0	6	21	41

重要種の選定根拠は以下のとおりである。

a：「文化財保護法(昭和25年法律第214号)」により天然記念物に指定されている種

b：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)」で指定されている種

c：「哺乳類、汽水･淡水魚類、昆虫類、貝類、植物I及び植物IIのレッドリストの見直しについて（環境省　平成19年8月）」に記載されている種

CR：絶滅危惧IA類（ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種）

EN：絶滅危惧IB類（IA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種）

VU：絶滅危惧II類（絶滅の危険が増大している種）

NT：準絶滅危惧（存続基盤が脆弱な種）

DD：評価するだけの情報が不足している種

Lp：絶滅のおそれのある地域個体群（地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの）

d：「改訂･近畿地方の保護上重要な植物－レッドデータブック近畿2001－(レッドデータブック近畿研究会,平成13年8月)」に記載されている種

A：絶滅危惧A種（近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種類）

B：絶滅危惧B種（近い将来における絶滅の危険性が高い種類）

C：絶滅危惧C種（絶滅の危険性が高くなりつつある種類）

準絶：準絶滅危惧種（生育条件の変化によっては、「絶滅危惧種」に移行する要素をもつ種類）

e：「大切にしたい奈良県の野生動植物　植物･昆虫類レッドリスト（奈良県農林部森林保全課　平成19年11月）」に記載されている種

絶滅：絶滅種（すでに絶滅したと考えられる種）

寸前：絶滅寸前種（絶滅の危機に瀕している種）

危惧：絶滅危惧種（絶滅の危機が増大している種）

希少：希少種（存続基盤が脆弱な種）

不足：情報不足種（評価するだけの情報が不足している種）

注目：注目種（上記の区分以外で奈良県において生物多様性の保全上注目される種）

郷土：郷土種（県民が大切にしている、もしくは大切にしたい種）

(出典：文献番号 6-2，8，15，37，38，41)

4)**外来種**

猿谷ダム周辺における国外外来種の確認状況を表 6.2-10 に示す。

平成 6 年(1994 年)度調査では 29 種、平成 9 年(1997 年)度調査では 42 種、平成 14 年(2002 年)度調査では 45 種を確認した。また、3 年度分の調査結果をあわせると 25 科 72 種の国外外来種を確認した。なお、外来生物法において指定された特定外来生物に該当する種として、アレチウリ、オオカワヂシャの 2 種を確認した。

表 6.2-10(1) 植物外来種の確認状況

No.	綱･亜綱名	科名	種和名	確認状況			選定基準
				H6 (1994)	H9 (1997)	H14 (2002)	a
1	シダ綱	ミズワラビ科	ホウライシダ	●	●		
2	双子葉植物綱･離弁花亜綱	タデ科	アレチギシギシ	●			
3			ナガバギシギシ			●	
4			エゾノギシギシ		●		要注意 (不足)
5		ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ		●	●	
6			ヤマゴボウ			●	
7		ナデシコ科	オランダミミナグサ		●	●	
8			コハコベ	●	●	●	
9		アカザ科	アカザ		●	●	
10		ヒユ科	アオビユ	●			
11			ノゲイトウ			●	
12		アブラナ科	セイヨウカラシナ			●	
13			セイヨウアブラナ			●	
14			オランダガラシ		●		要注意 (不足)
15			ショカツサイ			●	
16		ベンケイソウ科	ツルマンネングサ			●	
17		マメ科	クロバナエンジュ		●		
18			アレチヌスビトハギ	●	●	●	
19			アメリカヌスビトハギ		●		
20			ウマゴヤシ	●	●		
21			ハリエンジュ	●	●	●	要注意 (緑化)
22			ムラサキツメクサ	●	●		
23			シロツメクサ	●	●	●	
24		カタバミ科	オッタチカタバミ			●	
25		フウロソウ科	アメリカフウロ		●	●	
26		トウダイグサ科	オオニシキソウ		●	●	
27			コニシキソウ			●	
28		アオイ科	ムクゲ	●			
29		ウリ科	アレチウリ		●		特定
30		アカバナ科	メマツヨイグサ			●	要注意 (不足)
31			オオマツヨイグサ	●			
32			コマツヨイグサ			●	要注意 (不足)

表 6.2-10 (2) 植物外来種の確認状況

No.	綱･亜綱名	科名	種和名	確認状況			選定基準
				H6 (1994)	H9 (1997)	H14 (2002)	a
33	双子葉植物綱･合弁花亜綱	ヤブコウジ科	マンリョウ	●	●	●	要注意（不足）
34		ゴマノハグサ科	オオカワヂシャ			●	特定
35			タチイヌノフグリ		●	●	
36			オオイヌノフグリ		●	●	
37		アカネ科	メリケンムグラ	●		●	
38		ヒルガオ科	アサガオ			●	
39		シソ科	ヒメオドリコソウ			●	
40		ナス科	ワルナスビ	●	●		要注意（不足）
41			テリミノイヌホオズキ		●		
42		オオバコ科	ヘラオオバコ			●	要注意（不足）
43		キク科	ブタクサ	●	●		要注意（不足）
44			ホウキギク			●	
45			アメリカセンダングサ	●	●	●	要注意（不足）
46			コセンダングサ		●	●	要注意（不足）
47			フランスギク			●	
48			アレチノギク		●		
49			オオアレチノギク	●		●	要注意（不足）
50			ベニバナボロギク	●	●	●	
51			アワコガネギク		●		
52			ヒメムカシヨモギ	●	●	●	要注意（不足）
53			ハルジオン		●	●	要注意（不足）
54			セイタカアワダチソウ	●	●	●	要注意（検討）
55			オニノゲシ		●	●	
56			ヒメジョオン	●	●	●	要注意（不足）
57			セイヨウタンポポ	●		●	要注意（不足）
58			オオオナモミ	●	●	●	要注意（不足）
59	単子葉植物綱	アヤメ科	キショウブ	●	●		要注意（不足）
60			ニワゼキショウ	●			
61			ヒメヒオウギズイセン		●		
62		イネ科	メリケンカルカヤ	●		●	要注意（不足）
63			コバンソウ		●		
64			イヌムギ			●	
65			カモガヤ	●	●		要注意（緑化）
66			シナダレスズメガヤ	●	●		要注意（緑化）
67			オニウシノケグサ		●		要注意（緑化）
68			ネズミムギ		●		要注意（緑化）
69			シマスズメノヒエ			●	
70			キシュウスズメノヒエ		●		要注意（緑化）
71			ナガハグサ	●			
72			ナギナタガヤ			●	
合計		25科	72種	29	42	45	27

外来種の選定根拠は以下のとおりである。

a.「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」により指定されている種
　特定：特定外来生物
　要注意：要注意外来生物

注）上記以外の外来種の選定は「外来種ハンドブック」日本生態学会編(2002)に従った。

（出典：文献番号 6-2，8，15，42）

(5)**鳥類**

1)**鳥類相の概況**

猿谷ダム周辺では、平成 7 年(1995 年)度、平成 10 年(1998 年)度、平成 15 年(2003 年)度に実施された「河川水辺の国勢調査」において、オシドリ、ハイタカ、ヤマセミ、カワセミ、ヒヨドリ、ホオジロなど 14 目 34 科 79 種の鳥類を確認した。

表 6.2-11(1)　猿谷ダム周辺における鳥類の確認状況

NO.	目名	科名	種名	河川水辺の国勢調査			猛禽類調査
				H4-5 (1992-1993)	H8 (1996)	H13 (2001)	H14 (2002)
1	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ				●
2	ペリカン目	ウ科	カワウ			●	●
3	コウノトリ目	サギ科	ゴイサギ		●	●	
4			コサギ		●		
5			アオサギ	●	●	●	●
6	カモ目	カモ科	オシドリ	●	●	●	●
7			カルガモ			●	
8			オナガガモ				●
9	タカ目	タカ科	ミサゴ			●	
10			トビ	●	●	●	●
11			オオタカ				●
12			ツミ				●
13			ハイタカ	●		●	●
14			サシバ		●		
15			クマタカ			●	●
16	キジ目	キジ科	コジュケイ	●	●	●	
17			ヤマドリ	●	●		●
18	ハト目	ハト科	キジバト	●	●	●	●
19			アオバト	●	●	●	●
20	カッコウ目	カッコウ科	ジュウイチ	●			
21			ツツドリ		●	●	
22			ホトトギス		●	●	
23	フクロウ目	フクロウ科	コノハズク	●		●	
24	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ			●	
25	アマツバメ目	アマツバメ科	ヒメアマツバメ	●			●
26			アマツバメ		●	●	
27	ブッポウソウ目	カワセミ科	ヤマセミ	●	●	●	●
28			カワセミ	●	●	●	●
29	キツツキ目	キツツキ科	アオゲラ	●	●	●	●
30			アカゲラ	●	●	●	
31			オオアカゲラ			●	●
32			コゲラ	●	●	●	●
			キツツキ科の一種		●		

表 6.2-11(2)　猿谷ダム周辺における鳥類の確認状況

NO.	目名	科名	種名	河川水辺の国勢調査			猛禽類調査
				H4-5 (1992-1993)	H8 (1996)	H13 (2001)	H14 (2002)
33	スズメ目	ツバメ科	ツバメ	●	●	●	
34			コシアカツバメ	●			
35			イワツバメ	●	●	●	●
36		セキレイ科	キセキレイ	●	●	●	●
37			ハクセキレイ	●		●	
38			セグロセキレイ	●	●	●	●
39		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	●	●	●	●
40		モズ科	モズ	●	●	●	●
41		カワガラス科	カワガラス	●	●	●	
42		ミソサザイ科	ミソサザイ	●	●		
43		イワヒバリ科	カヤクグリ			●	
44		ツグミ科	ルリビタキ	●	●	●	●
45			ジョウビタキ	●	●	●	●
46			トラツグミ		●	●	
47			シロハラ	●	●	●	●
48			ツグミ	●			●
49		チメドリ科	ソウシチョウ		●		●
50		ウグイス科	ヤブサメ	●	●	●	
51			ウグイス		●	●	●
52			メボソムシクイ	●			
53			センダイムシクイ	●		●	
54		ヒタキ科	キビタキ			●	
55			オオルリ	●	●	●	
56			サメビタキ	●			
57		エナガ科	エナガ	●	●	●	●
58		シジュウカラ科	コガラ	●	●	●	●
59			ヒガラ	●		●	●
60			ヤマガラ	●	●	●	●
61			シジュウカラ	●	●	●	●
62		キバシリ科	キバシリ			●	
63		メジロ科	メジロ		●	●	●
64		ホオジロ科	ホオジロ	●	●	●	●
65			カシラダカ	●			●
66			ミヤマホオジロ	●			●
67			アオジ		●	●	●
68			クロジ	●			
69		アトリ科	アトリ				●
70			カワラヒワ	●	●	●	●
71			マヒワ	●		●	●
72			ベニマシコ	●			●
73			ウソ		●	●	
74			イカル	●	●	●	●
75		ハタオリドリ科	スズメ		●		●
76		ムクドリ科	ムクドリ	●	●		
77		カラス科	カケス	●	●	●	●
78		カラス科	ハシボソガラス	●	●	●	●
79			ハシブトガラス	●	●	●	●
計	14目	34科	79種	52	50	57	49

(出典：文献番号 6-1，2，7，14，20)

2)**重要種**

猿谷ダム周辺における鳥類の重要種の確認状況を表 6.2-12 に示す。重要種として、環境省レッドリスト（平成 18 年）で絶滅危惧ＩＢ類に指定されているクマタカ、同レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されているサシバ、ヨタカなど、合計で 11 目 21 科 36 種を確認した。

表 6.2-12　猿谷ダム周辺における鳥類の重要種の確認状況

NO.	目名	科名	種名	確認状況				選定基準				
				H4-5 (1992-1993)	H8 (1996)	H13 (2001)	H14 (2002)	a	b	c	d	e
1	コウノトリ目	サギ科	ゴイサギ		●	●						注目
2	カモ目	カモ科	オシドリ	●	●	●	●			DD	準絶(繁殖)	注目
3	タカ目	タカ科	ミサゴ			●				NT	危惧(繁殖)	危惧
4			オオタカ				●		国内	NT	準絶(繁殖)	希少
5			ツミ				●				準絶(繁殖)	希少
6			ハイタカ	●		●	●			NT	注目(繁殖)	希少
7			サシバ		●					VU	危惧(繁殖)	危惧
8			クマタカ			●	●		国内	EN	危惧(繁殖)	危惧
9	ハト目	ハト科	アオバト	●	●	●	●					希少
10	カッコウ目	カッコウ科	ジュウイチ	●							危惧(繁殖)	危惧
11			ツツドリ		●	●					準絶(繁殖)	希少
12			ホトトギス		●	●					準絶(繁殖)	
13	フクロウ目	フクロウ科	コノハズク	●		●					危惧(繁殖)	危惧
14	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ			●				VU	危惧(繁殖)	危惧
15	アマツバメ目	アマツバメ科	ヒメアマツバメ	●			●					希少
16	ブッポウソウ目	カワセミ科	ヤマセミ	●	●	●	●				準絶(繁殖)	希少
17			カワセミ	●	●	●	●				準絶(繁殖)	
18	キツツキ目	キツツキ科	アオゲラ	●	●	●	●				準絶(繁殖)	
19			アカゲラ	●	●	●					準絶(繁殖)	希少
20			オオアカゲラ			●	●				準絶(繁殖)	希少
21	スズメ目	カワガラス科	カワガラス	●	●	●					準絶(繁殖)	希少
22		ミソサザイ科	ミソサザイ	●	●						準絶(繁殖)	
23		イワヒバリ科	カヤクグリ			●					準絶(繁殖)	危惧
24		ツグミ科	ルリビタキ	●	●	●	●				準絶(繁殖)	希少
25			トラツグミ		●	●					危惧(繁殖)	希少
26		ウグイス科	メボソムシクイ	●							準絶(繁殖)	希少
27		ウグイス科	センダイムシクイ	●		●					準絶(繁殖)	希少
28		ヒタキ科	キビタキ			●					準絶(繁殖)	希少
29			オオルリ	●	●	●					準絶(繁殖)	
30			サメビタキ	●								不足
31		シジュウカラ科	コガラ	●	●	●	●					希少
32		キバシリ科	キバシリ			●					準絶(繁殖)	危惧
33		ホオジロ科	ミヤマホオジロ	●			●				準絶(越冬)	希少
34			アオジ		●	●	●				準絶(繁殖)	危惧
35			クロジ	●							準絶(繁殖)	危惧
36		アトリ科	イカル	●	●	●	●					郷土
計	11目	21科	36種	21	18	26	16	0	2	7	30	31

重要種の選定根拠は以下のとおりである。

a：「文化財保護法(昭和25年法律第214号)」により天然記念物に指定されている種

b：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年法律第75号）」で指定されている種

国際：国際希少野生動植物種（国際的に協力して種の保存を図ることとされている絶滅のおそれのある野生動植物の種）

国内：国内希少野生動植物種（本邦に生息し又は生育する、絶滅のおそれのある野生動植物の種）

c：「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて（環境省　平成18年12月）に記載されている種

CR：絶滅危惧IA類（ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種）

EN：絶滅危惧IB類（IA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種）

VU：絶滅危惧II類（絶滅の危険が増大している種）

NT：準絶滅危惧（存続基盤が脆弱な種）

DD：評価するだけの情報が不足している種

Lp：絶滅のおそれのある地域個体群（地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの）

d：京都大学学術出版会（2002）「近畿地区・鳥類レッドデータブック」掲載種

危機絶滅：危機的絶滅危惧種（絶滅する可能性がきわめて大きい）

危惧：絶滅危惧種（絶滅する可能性が大きい）

準絶：準絶滅危惧種（絶滅する可能性がある）

（繁殖）、（越冬）、（通過）はそれぞれ近畿地方における希少性ランクを判定する際に対象となった繁殖個体群・越冬個体群・通過個体群を示す。

注目：要注目種（特に危険なしと判定された種のうち、何らかの攪乱により一気に絶滅する可能性がある、あるいは全国・世界レベルで絶滅の危険があるとみなされているもの）

e：「2006大切にしたい奈良県の野生動植物-奈良県版レッドデータブック-(脊椎動物編)奈良県農林部森林保全課,平成18年3月」に記載されている種

絶滅：絶滅種（すでに絶滅したと考えられる種）

寸前：絶滅寸前種（絶滅の危機に瀕している種）

危惧：絶滅危惧種（絶滅の危機が増大している種）

希少：希少種（存続基盤が脆弱な種）

不足：情報不足種（評価するだけの情報が不足している種）

注目：注目種（上記の区分以外で奈良県において生物多様性の保全上注目される種）

郷土：郷土種（県民が大切にしている、もしくは大切にしたい種）

(出典：文献番号 6-1，2，7，14，20，36，39，40)

3)**外来種**

猿谷ダム周辺において、鳥類の国外外来種（野生化した飼育種を含む）として、特定外来生物に指定されているソウシチョウを確認した。

表 6.2-13　猿谷ダム周辺における鳥類の外来種の確認状況

NO.	目名	科名	種名	河川水辺の国勢調査			猛禽類調査	選定根拠
				H4-5 (1992-1993)	H8 (1996)	H13 (2001)	H14 (2002)	外来生物法
1	スズメ目	チメドリ科	ソウシチョウ		●		●	特定
計	1目	1科	1種	0	1	0	1	1

外来種の選定根拠は以下のとおりである。

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」により指定されている種

特定：特定外来生物

(出典：文献番号 6-1，2，7，14，20，42)

(6)**両生類、爬虫類、哺乳類**

1)**両生類、爬虫類、哺乳類相の概況**

平成 5 年(1993 年)度調査では、両生類 2 目 4 科 8 種、爬虫類 2 目 5 科 7 種、哺乳類 6 目 10 科 12 種が、平成 10 年(1998 年)度調査では、両生類 2 目 6 科 11 種、爬虫類 2 目 4 科 9 種、哺乳類 6 目 10 科 16 種が、平成 15 年(2003 年)度調査では、両生類 2 目 4 科 6 種、爬虫類 2 目 5 科 9 種、哺乳類 7 目 12 科 19 種を確認しており、3 回の調査結果を合わせると、猿谷ダム周辺では、両生類 2 目 6 科 13 種、爬虫類 2 目 5 科 11 種、哺乳類 7 目 12 科 21 種の生息を確認したことになる(表 6.2-14)。平成 15 年(2003 年)度調査における確認種数については、両生類は減少、哺乳類は増加の傾向を示した。

表 6.2-14(1) 猿谷ダム周辺における両生類の確認状況

NO.	目名	科名	種名	H5 (1993)	H10 (1998)	H15 (2003)
1	サンショウウオ目	サンショウウオ科	ブチサンショウウオ		●	
2		イモリ科	イモリ	●	●	●
3	カエル目	ヒキガエル科	ニホンヒキガエル		●	●
4			ナガレヒキガエル		●	
5		アマガエル科	アマガエル	●	●	
6		アカガエル科	タゴガエル	●	●	●
7			ヤマアカガエル	●	●	
8			トノサマガエル	●		
9			ヌマガエル		●	
10			ウシガエル			●
11			ツチガエル	●	●	●
12		アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	●	●	
13			カジカガエル	●	●	●
計	2目	6科	13種	8	11	6

(出典：文献番号 6-2，3，10，16)

表 6.2-14(2) 猿谷ダム周辺における爬虫類の確認状況

NO.	目名	科名	種名	H5 (1993)	H10 (1998)	H15 (2003)
1	カメ目	イシガメ科	クサガメ			●
2			ミシシッピアカミミガメ	●		●
3	トカゲ目	トカゲ科	トカゲ	●	●	●
4		カナヘビ科	カナヘビ	●	●	●
5		ヘビ科	タカチホヘビ		●	
6			シマヘビ	●	●	●
7			ジムグリ		●	●
8			シロマダラ		●	●
9			ヒバカリ	●	●	
10			ヤマカガシ	●	●	●
11		クサリヘビ科	マムシ	●	●	●
計	2目	5科	11種	7	9	9

(出典：文献番号 6-2，3，10，16)

表 6.2-14(3)　猿谷ダム周辺における哺乳類の確認状況

NO.	目名	科名	種名	H5 (1993)	H10 (1998)	H15 (2003)
1	モグラ	トガリネズミ	ジネズミ			●
2			カワネズミ	●		
3		モグラ	ヒミズ		●	●
4			アズマモグラ			●
			Mogera属の一種		●	○
5	コウモリ	ヒナコウモリ	モモジロコウモリ			●
6	サル	オナガザル	ニホンザル	●	●	●
7	ウサギ	ウサギ	ノウサギ	●	●	●
8	ネズミ	リス	ニホンリス	●		●
9			ムササビ		●	●
			リス科の一種		○	
10		ネズミ	スミスネズミ		●	
11			アカネズミ	●	●	●
12			ヒメネズミ		●	●
13			ハツカネズミ			●
			ネズミ科の一種		○	○
14	ネコ	イヌ	タヌキ	●	●	●
15			キツネ	●	●	●
16		イタチ	テン	●	●	●
17			Mustela属の一種	●	●	●
18			アナグマ		●	●
19	ウシ	イノシシ	イノシシ	●	●	●
20		シカ	ホンドジカ	●	●	●
21		ウシ	カモシカ	●	●	●
計	7目	12科	21種	12	16	19

注）○は種数として計数しない。

(出典：文献番号 6-2，10，16)

2)**重要種**

重要種として、両生類はブチサンショウウオ、イモリ、ニホンヒキガエルの３種、爬虫類はタカチホヘビ、シロマダラ、ヤマカガシ、マムシの４種、哺乳類はカワネズミ、モモジロコウモリ、カモシカの３種を確認した。

表 6.2-15　猿谷ダム周辺における両生類・爬虫類・哺乳類の重要種の確認状況

No.	綱名	目名	科名	種名	確認状況			選定基準			
					H5 (1993)	H10 (1998)	H15 (2003)	a	b	c	d
1	両生綱	サンショウウオ目	サンショウウオ科	ブチサンショウウオ		●				NT	不足
2			イモリ科	イモリ	●	●	●			NT	
3		カエル目	ヒキガエル科	ニホンヒキガエル		●	●				危惧
4	爬虫綱	トカゲ目	ヘビ科	タカチホヘビ		●					不足
5				シロマダラ		●	●				不足
6				ヤマカガシ	●	●	●				希少
7			クサリヘビ科	マムシ	●	●	●				希少
8	哺乳綱	モグラ目	トガリネズミ科	カワネズミ	●						危惧
9		コウモリ目	ヒナコウモリ科	モモジロコウモリ			●				希少
10		ウシ目	ウシ科	カモシカ	●	●	●	特			
計	3綱	6目	8科	10種	5	8	7	1	0	0	8

重要種の選定根拠は以下のとおりである。

a：「文化財保護法(昭和25年法律第214号)」により天然記念物に指定されている種
　特：国指定特別天然記念物
　国：国指定天然記念物

b：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)」で指定されている種

c：「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて（環境省　平成18年12月）に記載されている種
「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物I及び植物IIのレッドリストの見直しについて（環境省　平成19年8月）」に記載されている種
　CR：絶滅危惧IA類（ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種）
　EN：絶滅危惧IB類（IA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種）
　VU：絶滅危惧II類（絶滅の危険が増大している種）
　NT：準絶滅危惧（現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種）
　DD：評価するだけの情報が不足している種
　Lp：絶滅のおそれのある地域個体群（地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの）

d：「2006大切にしたい奈良県の野生動植物-奈良県版レッドデータブック-(脊椎動物編)奈良県農林部森林保全課,平成18年3月」に記載されている種
　絶滅：絶滅種（すでに絶滅したと考えられる種）
　寸前：絶滅寸前種（絶滅の危機に瀕している種）
　危惧：絶滅危惧種（絶滅の危機が増大している種）
　希少：希少種（存続基盤が脆弱な種）
　不足：情報不足種（評価するだけの情報が不足している種）
　注目：注目種（上記の区分以外で奈良県において生物多様性の保全上注目される種）
　郷土：郷土種（県民が大切にしている、もしくは大切にしたい種）

(出典：文献番号 6-2，3，10，16，36，37，40)

3)**外来種**

国外外来種として、両生類はウシガエルが 1 種、爬虫類はミシシッピアカミミガメを 1 種確認している。哺乳類の外来種は確認していない。

なお、ウシガエルについては、平成 15 年 10 月にダム湖右岸のスギ植林の林縁部において幼体の目撃により確認したものである(確認地点付近の廃屋のコンクリート製貯水槽内で成長したものと考えられる)。

表 6.2-16　猿谷ダム周辺における両生類・爬虫類・哺乳類の外来種の確認状況

NO.	目名	科名	種名	確認状況			選定根拠
				H5 (1993)	H10 (1998)	H15 (2003)	外来生物法
1	カエル目	アカガエル科	ウシガエル			●	特定
2	カメ目	イシガメ科	ミシシッピアカミミガメ	●		●	要注意
計	2目	2科	2種	1	0	2	2

外来種の選定根拠は以下のとおりである。

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」により指定されている種

特定：特定外来生物

要注意：要注意外来生物

(出典：文献番号 6-2，3，10，16，42)

(7)**陸上昆虫類等**

1)**陸上昆虫類等相の概況**

猿谷ダム周辺における、陸上昆虫類等の確認状況を表 6.2-17 に示す。平成 7(1995)年度調査では 816 種であったが、平成 12(2000)年度、平成 17(2005)年度とも 1,500 種以上の種類を確認している。3 ヶ年度分の調査をあわせると、猿谷ダム周辺では、クモ綱が 127 種、昆虫綱が 2,552 種(チョウ目が 961 種、コウチュウ目が 738 種など)の合計 2,679 種の生息を確認したことになる。

表 6.2-17　猿谷ダム周辺における陸上昆虫類等の確認状況

目名	H7 (1995)	H12 (2000)	H17 (2005)	合 計
クモ目		61	105	127
バッタ目	33	40	41	63
カメムシ目	84	163	203	290
チョウ目	360	663	488	961
ハエ目	62	115	81	172
コウチュウ目	166	410	456	738
ハチ目	52	108	86	167
水生昆虫類 (4目)	38	63	52	88
その他 (12目)	21	40	51	73
総計	816	1,663	1,563	2,679

(出典：文献番号 6-5，13，18)

2)**重要種**

猿谷ダム周辺における陸上昆虫類等の重要種の確認状況を表 6.2-18 に示す。

重要種として確認したのは合計 8 目 17 科 22 種で、平成 7 年（1995 年）度調査では環境省レッドリスト（平成 19 年）において情報不足とされているナカハラヨコバイ、平成 17 年（2005 年）度調査では絶滅危惧Ⅰ類に指定されているクロシジミをそれぞれ確認した。

表 6.2-18　猿谷ダム周辺における陸上昆虫類等の重要種の確認状況

No.	目名	科名	種名	確認状況			選定基準			
				H7 (1995)	H12 (2000)	H17 (2005)	a	b	c	d
1	トンボ	ムカシトンボ	ムカシトンボ	●						希少
2		トンボ	ミヤマアカネ		●					希少
3	カマキリ	カマキリ	ヒナカマキリ		●					希少
4	バッタ	キリギリス	カヤキリ	●						希少
5		コオロギ	カワラスズ		●	●				不足
6			クチナガコオロギ		●					希少
7		バッタ	カワラバッタ		●					希少
8			キイフキバッタ	●						不足
9	カメムシ	ヨコバイ	ナカハラヨコバイ			●			DD	
10	シリアゲムシ	シリアゲムシ	プライヤシリアゲ		●					注目
11	トビケラ	トビケラ	アミメトビケラ		●					希少
12	チョウ	シジミチョウ	ウラナミアカシジミ			●				危惧
13			クロシジミ	●					CR+EN	希少
14		タテハチョウ	メスグロヒョウモン	●						希少
15			ウラギンヒョウモン		●					希少
16			クモガタヒョウモン		●					希少
17		アゲハチョウ	ジャコウアゲハ	●	●					注目
18		ヤガ	シロシタバ			●				希少
19	コウチュウ	センチコガネ	オオセンチコガネ	●	●	●				郷土
20		タマムシ	ヤマトタマムシ	●						郷土
21		ホタル	ゲンジボタル			●				郷土
22		ジョウカイモドキ	アトキクロヒメジョウカイモドキ			●				不足
計	8目	17科	22種	8	11	7	0	0	2	21

重要種の選定根拠は以下のとおりである。

a：「文化財保護法(昭和25年法律第214号)」により天然記念物に指定されている種

b：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)」で指定されている種

c：「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物I及び植物IIのレッドリストの見直しについて（環境省　平成19年8月）」に記載されている種

CR+EN：絶滅危惧I類（絶滅の危機に瀕している種）

VU：絶滅危惧II類（絶滅の危険が増大している種）

NT：準絶滅危惧（存続基盤が脆弱な種）

DD：評価するだけの情報が不足している種

Lp：絶滅のおそれのある地域個体群（地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの）

d：「大切にしたい奈良県の野生動植物　植物・昆虫類レッドリスト（奈良県農林部森林保全課　平成19年11月）」に記載されている種

絶滅：絶滅種（すでに絶滅したと考えられる種）

寸前：絶滅寸前種（絶滅の危機に瀕している種）

危惧：絶滅危惧種（絶滅の危機が増大している種）

希少：希少種（存続基盤が脆弱な種）

不足 ：情報不足種（評価するだけの情報が不足している種 ）

注目：注目種（上記の区分以外で奈良県において生物多様性の保全上注目される種）

郷土：郷土種（県民が大切にしている、もしくは大切にしたい種）

(出典：文献番号 6-5，13，18，37，41)

3)**外来種**

猿谷ダム周辺における陸上昆虫類等の国外外来種の確認状況を表 6.2-19 に示す。

平成 7 年(1995 年)度調査では 6 種、平成 12 年(2000 年)度調査では 10 種、平成 17 年(2005 年)度調査では 9 種、それぞれ確認した。また、3 年度分の調査結果をあわせると 5 目 18 科 21 種の外来種を確認した。なお、外来生物法において指定された特定外来生物に該当する種は確認しなかった。

表 6.2-19　猿谷ダム周辺における陸上昆虫類等の外来種の確認状況

№	目名	科名	種和名	H7 (1995)	H12 (2000)	H17 (2005)
1	カメムシ目(半翅目)	アブラムシ科	イバラヒゲナガアブラムシ		●	
2		ワタフキカイガラムシ科	イセリアカイガラムシ			●
3	チョウ目(鱗翅目)	イラガ科	ヒロヘリアオイラガ			●
4		ツトガ科	シバツトガ			●
5		ヤガ科	オオタバコガ		●	
6	ハエ目(双翅目)	ミズアブ科	アメリカミズアブ			●
7		チーズバエ科	チーズバエ	●		
8		ヒメイエバエ科	ヒメイエバエ	●		
9	コウチュウ目(鞘翅目)	コガネムシ科	シロテンハナムグリ	●	●	
10		ナガシンクイムシ科	チビタケナガシンクイ	●		
11			ナラヒラタキクイムシ			●
12		ケシキスイ科	クリイロデオキスイ			●
13		ホソヒラタムシ科	カドコブホソヒラタムシ		●	
14			フタトゲホソヒラタムシ	●		●
15		カミキリムシ科	テツイロヒメカミキリ		●	
16			ラミーカミキリ		●	●
17		ヒゲナガゾウムシ科	ワタミヒゲナガゾウムシ		●	
18		オサゾウムシ科	シバオサゾウムシ	●		
19	ハチ目(膜翅目)	ナガコバチ科	ナガコバチ科の一種		●	
20		アナバチ科	アメリカジガバチ		●	
21		ミツバチ科	セイヨウミツバチ		●	●
計	5目	18科	21種	6	10	9

(出典：文献番号 6-5，13，18，42)